

【対応】 ● 意見を反映するもの □ 今後の参考とするもの
 ☆ 既に計画（案）に反映されているもの 等

No.	最終案 ページ	項目	意見・理由（原則、原文のまま）	対応	考え方等
1	p.5	第1章 序論 1-6-(3)地域経済の強化	<p>＜意見＞ 「空き家・空き店舗の活用や、」→「空き家・<u>空き部屋</u>・空き店舗の活用や、」に追加修正する必要がある。 基本施策に、「空き家・空き部屋」の活用を盛り込む必要がある。 ＜理由＞ 基本施策では「空き店舗」については触れているが、「空き住宅」（及び空き部屋）には触れていない。民泊事業法によりこれらを積極的に活用し交流人口の増に結びつけることができる。このことは市街地・非市街地に関係なく取り組みが可能である。</p>	●	<p>ご意見を踏まえ、次のとおり追加します。 【p.5「1-6-(3)地域経済の強化」】 『 ▶町内の働く場を確保し、また、交流人口を増やすことが、地域内経済の循環と強化に繋がります。そのために、空き家・<u>空き部屋</u>・空き店舗の活用や～「ビジネスに挑戦する人を応援するまち」を目指します。 』</p> <p>なお、空き部屋の活用については、移住施策としての活用とそれに伴う交流人口及び関係人口の増加・拡大、地域経済の活性化に繋がるものと考えます。</p>
2	p.39	第3章 戦略編 戦略1-(2)農業10年ビジョン推進プロジェクト	<p>＜意見＞ 今後の事業展開 下から4つ目の◆の中の「、農泊等の推進」とあるが、上記との関係で、この記載を強化するか、或いは施策との関係を明確化するためにどこかの「基本施策」の項に盛り込むこと。 ＜理由＞ 「儲ける農業」の追求だけで良いのか。長期的な展望に立った当別や当別農業への理解と共感を深めるための手法として、農泊等の推進は極めて有効である。</p>	●	<p>ご意見を踏まえ、次のとおり追加します。 【pp.28-29「施策4-(1)-①農畜産業の振興」】 『 【関連する施策】 ▶ 畜産クラスター事業 ▶ <u>農泊の推進</u> 』</p> <p>【p.31「施策4-(3)-①観光業の振興と交流人口の拡大」】 『 【関連する施策】 ▶ MICE（マイルス）への取り組み ▶ <u>農泊の推進【再掲】</u> 』</p> <p>なお、農泊については、その趣旨からも地域と宿泊利用者との良好な関係構築に期待できるなど、ご意見のとおり本町の農業への理解・共感と、交流人口及び関係人口の増加・拡大にも繋がるものと考えます。</p>

No.	最終案 ページ	項目	意見・理由（原則、原文のまま）	対応	考え方等
3	p.5	第1章 序論 1-6当別町が目指すまちづくり	<p>《意見》</p> <p>1-6「当別町が目指すまちづくりのリード文」を下記の内容に修正する。</p> <p>【計画書に反映する方法（案）】2行目を …幸せに暮らせる魅力的なまちづくりを目指します。…に変更</p> <p>《理由》</p> <p>①人口対策が計画書の根底になっていること。</p> <p>②定住人口対策で重要と思われる「町外からの転入」を目指す意思が、計画書の指針として感じ取れないこと。</p>	●	<p>ご意見を踏まえ、次のとおり追加します。</p> <p><u>【p.5「1-6当別町が目指すまちづくり」】</u></p> <p>『 住民生活のしやすさ ～ また、年齢や障がいの有無等に関わらず、あらゆる人が幸せに暮らせる魅力的なまちづくりを目指します。 』</p>
4	p.5	第1章 序論 1-6-(1)都市機能の集約	<p>《意見》</p> <p>1-6の(1)「都市機能の集約」に、下記の提言を加える。</p> <p>都市機能の集約を進めるキーワードに「住みたくなるまち」の文言を加え、『町外からの転入に取り組む意志』を明確に表現する。</p> <p>【計画書に反映する方法（案）】2行目を …利便性の向上を図り、「住みたくなるまち、出かけたくなるまち」を目指します。に変更する。</p> <p>《理由》</p> <p>①計画書の人口対策における「都市機能の集約」は、重要かつ効果的な方策の一つに位置づけられること。</p> <p>②「都市機能の集約」の冒頭の文言は、人口対策に取り組む当別町の認識を印象づける重要な部分となっていること。</p> <p>③“住みたくなるまち”は、当別の転入を促進するキャッチフレーズとして適した表現に思えること。</p>	●	<p>ご意見を踏まえ、次のとおり追加します。</p> <p><u>【p.5「1-6-(1)都市機能の集約」】</u></p> <p>『 ▶町内各地からアクセスの ～ 様々な都市機能の誘導による利便性の向上を図り、「<u>住みたくなるまち</u>」「<u>出かけたくなるまち</u>」を目指します。 』</p>

No.	最終案 ページ	項目	意見・理由（原則、原文のまま）	対応	考え方等
5	p.5	第1章 序論 1-6-(2)誰もが利用しやすく、持続可能な公共交通の形成	<p>《意見》</p> <p>1-6の(2)「誰もが利用しやすく、接続可能…」に下記提案を加える。</p> <p>「地下鉄栄町駅を接続点とした当別町フレバスと札幌市営地下鉄の相互乗り入れ」の新たなアクセスルートの開設を目指し、飛躍的な利便性向上による地下鉄網周辺地域との交流の深まりとともに、外出や通勤、通学などが可能なエリア拡張による定住/関係/交流人口すべての増加を図る。</p> <p>【計画書に反映する方法（案）】2行目を …見直しや鉄道・地下鉄・バス・タクシー等の連携、… に変更</p> <p>《理由》</p> <p>①隣接する第1次産業の多い自然豊かな”当別町”と、ヒト、モノ、カネ、サービス、情報、などが豊富な大都会”札幌市”の移動手段強化は、双方の長中短期の何れも有効で重要な施策になり得ること。</p> <p>②大都会近隣の中規模地方自治体における「広域活性化モデル事業」として、国や道などの上部組織からの賛同が得やすいこと。</p> <p>*以上の観点から、計画書を「公共交通連携による広域の地域活性化モデル事業」の布石として位置づける。</p>	□	<p>当別町から札幌市営交通「地下鉄栄町駅」までのバス接続については、過去、民間バス事業者が運行していたところですが、経費の増加と利用者の減少等により、平成10年3月31日をもって廃止となったところです。</p> <p>今後、札幌市（地下鉄）までのコミュニティバスによる路線構築については、その需要と運行収支のバランスや他の公共交通施策の状況を踏まえ、施策を展開していく中で検討することといたします。</p>
6	p.21	第2章 構想編 施策2-(2)-①子育て支援の充実	<p>《意見》</p> <p>基本施策2の(2)①「子育て支援の充実」に関する提言。</p> <p>高齢者の豊かな人生経験を活した「世代を超えた交流の場の提供」。</p> <p>【計画書に反映する方法（案）】1行目を 人生経験の豊かな高齢者と就学前の親子など「世代を超えた 交流の場」の提供や子育て・親育ち口座、… に差し替え</p> <p>《理由》</p> <p>①高齢者に対する「生きがいつくりや居場所づくり」に寄与すること。</p> <p>②子育て世代に対する「充実した支援体制の推進」が図れること。</p> <p>③共稼ぎ世帯に対する「受入れ体制とユニークな対応」が子育て世代転入の啓蒙となり、定住人口、関係人口の増加が期待できること。</p>	☆	<p>本項目において、『子育てボランティアの育成や、地域の団体と協働した交流事業等により、地域で見守る子育ての充実に努めます。』『地域で子育てに積極的に関わる環境整備や人材育成を図り、地域を基盤とした子育て支援機能の向上に努めます。』とあります。</p> <p>これは、ご意見にある「人生経験の豊かな高齢者との交流」「世代を超えた交流の場の提供」も含んでいるところです。</p>

No.	最終案 ページ	項目	意見・理由（原則、原文のまま）	対応	考え方等
7	p.31	第2章 構想編 施策4-(3)-①観光業の振興と交流人口の拡大	<p>＜意見＞</p> <p>基本施策4の(3)①「観光の振興と交流人口の拡大」の二つの提案。</p> <p>●道や国と連携し、道民の森・当別ふくろう湖エリアの観光資源化に向け、遊園、憩い、情操教育、自然体験、散策など多面的で個性的な「ファミリーリゾート地」を民営化や有料化を含め検討します。</p> <p>●観光事業者と連携し、北海道観光ツアーに向けた「オプションコース」などの観光商品開発に取り組みます。</p> <p>【計画書に反映する方法（案）】(3)の①の項目に、上記の2項目を追加</p> <p>＜理由＞</p> <p>①大都市に隣接と豊かな自然に恵まれた環境の恩恵を受けている観光産業の「自立と第2の基幹産業化」は、当別町の産業構造を展望うえで重要なテーマに位置付けられること。</p> <p>②第2の基幹産業として確立するためには、魅力的で個性的な観光資源の確保が前提にあること。</p> <p>③観光の基幹産業化に向けた事業として、核となる観光商品化の取組みよるビジネス展開が必要なこと。</p>	□	<p>本項目において『「道民の森」や「当別ダム・ダム湖（ふくろう湖）」の景観など、身近にレジャーが楽しめる自然環境の優位性や、美しい田園風景を形成する農村など、それぞれの特色を活かした新しい観光スタイルの創出に努めます。』とあり、また【関連する施策】においても『観光ルートの検証』とあります。</p> <p>なお、いただいたご意見については、関連団体等と今後の施策を進めるにあたっての参考とさせていただきます。</p>
8	p.7	第1章 序論 1-8評価・検証	<p>＜意見＞</p> <p>評価・検証については「当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会」において……進捗管理を図る。としていますが、「必要に応じての住民アンケート」がどれほど活用されるかわかりませんが、多くの町民が自由に手に取って見られるところに設置し、何時でも質問や意見が投稿できる仕組みをつくってほしい。</p> <p>＜理由＞</p> <p>10年間の長期にわたる計画であることから町民誰もがその時々で、計画のどの施策に係ることなのかを確認でき、質問や意見が言えるから。</p>	☆	<p>本計画については、町ホームページへの掲載のほか、閲覧用として役場庁舎等一部の公共施設に配架いたします。</p> <p>また、ご意見やお問い合わせについては、常時、町ホームページから各担当への「お問い合わせメール」や書面（持参・郵送）、「それいいね！聞かせてご意見（原則として毎週月曜日に開催）」等でも承っております。</p>

No.	最終案 ページ	項目	意見・理由（原則、原文のまま）	対応	考え方等
9	pp.11~	第2章 構想編 2-2基本施策と分野別施策（方向性）の内容	<p>《意見》 「基本施策と分野別施策の内容」のそれぞれの【関連する施策】について【関連する計画】を明記してくれないと何処で行われているのかわからない。</p> <p>《理由》 行政機関のどの分野に関わる施策なのかなどわかれば町民もより協力しやすい。</p>	□	法令や制度等の新設・改正が頻繁にあり、本計画期間内において、新規・終了・廃止となる関連する個別計画等が多いことから、本計画への掲載は行いませんが、本計画に対応した一覧を別途作成するなどの方法での公表を検討してまいります。
10	p.34	第3章 戦略編 3-1-(3)将来の目標人口	<p>《意見》 (3)将来の目標人口、2060年までに20,000人。「定住人口減少克服」に焦点を当てる意気込みだけはわかりますが、「当別町第5次総合計画」から10年、「当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略」から5年(2040年までの目標)が過ぎ、いずれも目標としてきた2万人は遠くなるばかりです。2万人を先送りするのではなく、現状に即した数字で取り組むのが良いのではないのでしょうか。</p> <p>《理由》 現状に即した、数字を示して取り組むことで信頼度が上がると思う。</p>	☆	<p>全国的に少子高齢化が進むなか、本町の令和元年12月1日現在の人口は15,852人となっており、今後も人口減少が予想されます。</p> <p>ご意見のとおり、定住人口の増加は高いハードルであることは認識しておりますが、本計画を町全体で取り組むことで、魅力を高め、内外に積極的に発信することで目標人口の達成を目指していくものです。</p> <p>現状に即した目標として「10年後に16,000人」としつつ、その後の目標人口については、長期的な視点によるまちづくりを地域の皆様とともに進めていくためにも必要であると考えます。</p>
11	pp.38~	第3章 戦略編 3-3プロジェクト内容と重要業績評価指標（KPI）の設定	<p>《意見》 《重要業績評価指標》の数字は「当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略(第1期)」でも基準値（2014）と戦略目標が示されていたから、今回は、推移を見る上でも2014年の数字が出ているものは入れたら良いのではないのでしょうか。</p> <p>《理由》 5年間を振り返ることができる。</p>	●	ご意見を踏まえ、第1期から引き継いでいるKPIについては、参考として2014年時点の数値を記載いたします。
12	p.53	第3章 戦略編 戦略IV-(2)地域・在宅医療確保対策プロジェクト	<p>《意見》 (2)地域・在宅医療確保対策プロジェクトとして、主に高齢者の増加による対応に重きを置いているようですが、高齢者ばかりではなく子育て世代の多くが次世代の義務教育より小児科や救急医療体制のない現在の当別町に不安を感じ定住人口が増えないのではないのでしょうか。</p> <p>《理由》 アンケート調査などはしたことがあるのでしょうか？喫緊の課題かもしれません。</p>	☆	初期救急医療を含む休日救急当番体制の確立は喫緊の課題であり、高齢者のみならず地域住民の安心にもつながることから、医療機関の誘致も含めて、その確保に努めてまいります。

No.	最終案 ページ	項目	意見・理由（原則、原文のまま）	対応	考え方等
13	-	-	<p>《意見》 カタカナ文字、アルファベットの短縮用語が非常に多く、近頃の流行なのかもしれませんが、どなたにもわかりやすい表現をしてほしい。言葉の羅列だけではなかなか理解しにくいので、図などを取り入れ生活とのつながりを表現できるとわかりやすい。</p> <p>《理由》 町民に寄り添い、町民どなたでも理解しやすいものにしてほしい。</p>	☆	<p>本計画（案）の作成にあたり、できるだけ堅苦しい言葉や特殊な言葉・表現を避けることを心がけましたが、固有の名詞や用語など、文書中にその言葉を使うことが適当な場合もあることについて、ご理解をお願いいたします。</p> <p>なお、その用語などについては、資料として用語解説を設けます。</p>
14	p.2	第1章 序論 1-4目標とする定住人口等	<p>《意見》 定住人口の目標値に関してですが、人口減少は国全体で起きていますので、減少を受け入れて人口減少の中の町づくりの検討も必要ではないでしょうか？企業で通常考慮する雨・曇り・晴れの場合の戦略策定は行っていますでしょうか？今までの延長線状でしょうか？国全体の人口減少が進む中で当別町が他の地域と違う戦略は何になりますか？</p> <p>《理由》 計画に根拠が見えない点。総務省の予測では2040年の人口減少は進むと予測されているため。</p>	☆	<p>全国的に少子高齢化が進むなか、本町の令和元年12月1日現在の人口は15,852人となっており、今後も人口減少が予想されます。</p> <p>ご意見のとおり、定住人口の増加は高いハードルであることは認識しておりますが、本計画を町全体で取り組むことで、魅力を高め、内外に積極的に発信することで目標人口の達成を目指していくものです。</p> <p>また、「まちづくり」に関しては、現在、策定作業中の立地適正化計画で検討をされているところです。</p> <p>なお、その後の目標人口については、長期的な視点によるまちづくりを地域の皆様とともに進めていくためにも必要であると考えます。</p>
15	pp.2~4	第1章 序論 1-5当別町を取り巻く社会動向	<p>《意見》 取り巻く動向が他の地域の自治体との違いがなく、特性が見えないため、当別が持っている付加価値を活用できないのではないのでしょうか？ICT、環境、グローバル化は国で推進し、全ての自治体で取り組むためプラスアルファの対策が必要に感じます。</p> <p>事例) 1.スウェーデン企業と協力してスマートヴィレッジ作り 2.エストニアなどIT先進国との関係性構築 3.モノマネ戦略 人口増加地域のコピー https://toyokeizai.net/articles/-/288871?page=2</p> <p>《理由》 特性を活かすことができれば、人口増減に関係なく住んでいる人の幸せな町づくりを作ることが可能だと感じたため</p>	□	<p>本項目においては、主として現在の社会動向・社会潮流を記載していることから、他地域と大きく変わるものではないと考えます。</p> <p>なお、いただいたご意見については、施策を進めるにあたっての参考とさせていただきます。</p>

No.	最終案 ページ	項目	意見・理由（原則、原文のまま）	対応	考え方等
16	-		<p>《意見》 前回のKPIに関する評価確認 原因と今回の変更点</p> <p>《理由》 課題の共有は必要と感じたため</p>	☆	<p>第1期総合戦略に関する評価・検証については、毎年、外部評価として「当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会」で行っているところであり、その内容を町ホームページにおいて公表しているところです。</p> <p>また、本計画の策定にあたり、「当別町総合計画審議会」においても報告したうえで審議いただいていること、同様にその内容も町ホームページにおいて公表しております。</p>
17	p.2	第1章 序論 1-4目標とする定住人口等	<p>《意見》 総合戦略編の1-4には『定住人口は、「2030年までに16,000人」の達成を目標とし、「2040年までに18,000人、2060年までに20,000人」を目指します。』とあります。この増とする根拠が理解できませんし、この数値目標は現実的ではないと思います。</p> <p>《理由》 「計画の趣旨」に「全国的にも人口減少と少子高齢化が急速に進み」とあるのですから、当別町だけが「特別な」事象ではないと考えます。この数値により、計画・予算が変わってくるならば、もっと数値の取り組みに慎重になるべきだと考えます。</p>	☆	<p>全国的に少子高齢化が進むなか、本町の令和元年12月1日現在の人口は15,852人となっており、今後も人口減少が予想されます。</p> <p>ご意見のとおり、定住人口の増加は高いハードルであることは認識しておりますが、本計画を町全体で取り組むことで、魅力を高め、内外に積極的に発信することで目標人口の達成を目指していくものです。</p> <p>現状に即した目標として「10年後に16,000人」としつつ、その後の目標人口については、長期的な視点によるまちづくりを地域の皆様とともに進めていくためにも必要であると考えます。</p>
18	p.11	第2章 構想編 施策1：住みよいまちづくり	<p>《意見》 「地域のことは地域で考える」とある中、その関連施設として「図書館」が明記されてしかるべきだと思います。</p> <p>《理由》 図書館は9月議会で提案されて、図書館条例が設置されるはずで、図書館は「生涯学習の場」です。「考える力」を育てるのは「図書館の役割」でもありますから。</p>	☆	<p>ご意見のとおり、図書館については「関連する施設」のひとつとして、また、その活用等についても関連するものであると考えられますが、本計画では「(p.22) 施策2-(3)-①生涯学習活動の促進」において整理しているところです。</p>
19	p.20	第2章 構想編 施策2：豊かな人づくり	<p>《意見》 11ページと同様に「子育てと生涯学習」と謳うならば、その施設には「図書館」を中心とした活動の明記が必要です。したがって、学校教育、子育て支援、生涯教育の推進などではどのステージでも「図書館の充実と活用」の明記があつて当然かと思えます。</p> <p>《理由》 理由は同上。学校図書館も図書館が深くかわり、本来ならば図書館とともに運営・活動されるはずで、「人が育つ場」として「図書館の役割」が大きく関わってくると思えます。</p>	☆	<p>ご意見のとおり、図書館については「関連する施設」のひとつとして、また、その活用等についても関連するものであると考えられますが、本計画では「(p.22) 施策2-(3)-①生涯学習活動の促進」において整理しているところです。</p>

No.	最終案 ページ	項目	意見・理由（原則、原文のまま）	対応	考え方等
20	-	-	<p>《意見》 あまりにもカタカナ語やローマ字が多すぎて、もっと平易な理解しやすい日本語を使えないでしょうか。また、脱字も気になりました。</p> <p>《理由》 一般の市民には分かりやすい文言での計画書をお願いします。4pの「住民に身近な行政サービスを提供する」行政サービスを目指してほしいと思います。</p>	☆	<p>本計画（案）の作成にあたり、できるだけ堅苦しい言葉や特殊な言葉・表現を避けることを心がけましたが、固有の名詞や用語など、文書中にその言葉を使うことが適当な場合もあることについて、ご理解をお願いいたします。</p> <p>なお、その用語などについては、資料として用語解説を設けます。</p>
21	p.7	第1章 序論 1-8評価・検証	<p>《意見》 「当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会」において報告し意見の聴取等を行うなど、進捗管理を図」と記載されている。同委員会が機能するのは「平成32年12月」末まで、と同推進委員会条例にはあるが、その先はどこが進捗管理するのか不明。</p> <p>《理由》 整理不足ではないか</p>	☆	<p>ご指摘のとおり、「当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会条例」には、「平成32年12月31日限り、その効力を失う」とありますが、失効前に条例の改正等を行い、引き続き進捗管理をする予定としております。</p>
22	p.22	第2章 構想編 施策2-(3)生涯学習の推進	<p>《意見》 (3)生涯学習の推進 「図書館を設置し住民の様々な情報へのアクセスを保障します」など、図書館設置の方向性を具体的に明示して欲しい。</p> <p>《理由》 9月議会で図書館設置条例の方向性が示されたことを受け、（今後、議会承認が必要であるものの）図書館設置についての<u>方向性</u>を示すことは可能と考える。</p>	□	<p>図書館のあり方やその方向性など具体的な事項は、個別の（実行）計画や方針等によることとなりますが、いただいたご意見については、施策を進めるにあたっての参考とさせていただきます。</p>
23	p.2	第1章 序論 1-4目標とする定住人口等	<p>《意見》 1-4目標とする定住人口等について そもそも人口増を目指すのには無理があるように思います。毎年日本全体で鳥取県の人口と同じくらいの人口減があるといえます。素晴らしいアイデアがあって、これから人口が増えるなんてことはとても考えにくいです。</p> <p>《理由》 人口減、税収減に対応した政策の方が現実的だから。</p>	☆	<p>全国的に少子高齢化が進むなか、本町の令和元年12月1日現在の人口は15,852人となっており、今後も人口減少が予想されます。</p> <p>ご意見のとおり、定住人口の増加は高いハードルであることは認識しておりますが、本計画を町全体で取り組むことで、魅力を高め、内外に積極的に発信することで目標人口の達成を目指していくものです。</p> <p>現状に即した目標として「10年後に16,000人」としつつ、その後の目標人口については、長期的な視点によるまちづくりを地域の皆様とともに進めていくためにも必要であると考えます。</p>

No.	最終案 ページ	項目	意見・理由（原則、原文のまま）	対応	考え方等
24	p.31	第2章 構想編 施策4-(2)-③雇用・勤労者対策の推進	<p>＜意見＞</p> <p>◎外国人の就労者による居住、本町の一次産業・二次産業・三次産業で人手不足を補うための外国人雇用</p> <p>方法として、本町に就労支援センターのような機関・団体またはNPOのような受け入れる窓口を設立。札幌市では就労している外国人の相談窓口を開設している。</p> <p>（具体案）</p> <p>当別町で外国人受け入れの窓口を設置して各産業に回してもらう。</p> <p>ハローワークと連携して、外国人雇用コーナーを設置してもらう。</p> <p>（問題点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一企業で採用するには手続きが複雑、費用負担が大きい。 ・送出し研修、受入研修の費用負担（日当手当含む）、ブローカーへの手数料など宿泊施設（シェアハウス、共同住宅）の用意。 ・雇用期間は5年間（技術取得など必要条件が整えば延長可能）だが仕事内容、量など確保、継続できるか。 ・地域に馴染んでもらうためにイベントやサークル活動等に参加する機会を紹介しても本町で快適な生活をして貰うことができるか。 ・町民に外国人の居住を受け入れてもらえるのか <p>（需要）</p> <p>当社では今年、昨年に下請けによりすでに数名、普通作業員として受け入れている。農業関連・建設関連・福祉関連等では雇用期待されるのではないかと</p>	□	<p>外国人労働者を含めた労働力の確保については、今後、関連する団体・企業等と検討していく必要があることから、本項目においても『外国人就労者を含めた労働力の確保』と記載しているところです。</p> <p>なお、いただいたご意見については、関連団体等と今後の施策を進めるにあたっての参考とさせていただきます。</p>

No.	最終案 ページ	項目	意見・理由（原則、原文のまま）	対応	考え方等
25	p.17	第2章 構想編 施策1-(6)-②情報公開の推進	<p>《意見》</p> <p>イベントページやイベントカレンダーの創設を望みます。起業支援にもつながりますが、イベントに関しては周知の難しさがあり、民間団体のイベント継続困難な要因ともなっています。より経費削減と高い拡散能力を持っているネット・SNSでの情報拡散は力を入れてもらいたい部分でもあります。当別町LINE@やメルマガなどをつくり、情報配信システムを導入したり、InstagramなどのAIを導入し、より広く拡散できるようにすることをオススメします。人がすべてのSNSを管理するのは非常に労力がかかります。ネット広告なども積極的に導入してみたいかでしょうか。</p> <p>《理由》</p> <p>人口減少に対する効率化を図っていく必要があると感じます。すでにある企業だけではなく、これから活躍の場を広げたい起業家もつかえる情報配信システムは起業支援にもつながります。</p>	☆	<p>ご意見のとおり、SNSの活用については有効であると考えており、現在、インスタグラムやFacebookによる情報発信も行っているところですが、より効果的・効率的な運用・活用について検討課題としてまいります。</p> <p>また、他のご意見については、要望及びその他意見として承ります。</p>
26	p.31	第2章 構想編 施策4-(3)-①観光業の振興と交流人口の拡大	<p>《意見》</p> <p>すでに当別町内でサイクルツーリズムを事業化している方もいらっしゃいます。まずは当別町内にどのような方がいて、どのような観光PRできるのか、個人で活動されている方たちとあつまり、一緒にできる部分は共同するなど、横のつながりを増やした方がいいのではないのでしょうか。自然環境が整っているため、ツーリングなどもとてもオススメです。道民の森は車がないと行くことができませんが、JRでも来れるような場所にキャンプ場をつくったり、移動手段が確保され、様々なレジャーが札幌のすぐ近くでできるとなれば誘客効果はあがると思います。</p>	□	<p>いただいたご意見については、関連団体等と施策を進めるにあたっての参考とさせていただきます。</p>

No.	最終案 ページ	項目	意見・理由（原則、原文のまま）	対応	考え方等
27	p.21	第2章 構想編 施策2-(2)子育て支援の推進	<p>《意見》</p> <p>幼稚園主体の施設であるためか、共働き世代が増えている中で、親の参加行事が多いと感じます。乳幼児期は感染症などで休むことも多く、子の看護休暇は最大でも10日しかありません。子どもが多い家庭やひとり親世帯など所得の低い家庭ですと減給につながっている場合もあり、配慮が必要だと思えます。核家族化、共働き世帯の増加により病児保育の必要性はありませんか？対応可能施設が町外にしかなく、10割負担となっています。季節ものであり、運営が厳しい現状も把握しております。せめて補助制度の検討をしていただきたく思います。認定こども園には看護師の配置がありませんが、乳児も多いため配置したほうが良いのではないのでしょうか。園から発行されている疾患などの発行物に誤った情報が記載されていることが何度かありました。また、アレルギーの関係で食べさせてほしくないものなどを伝えていたにもかかわらず、食べていたという事もあり、子どもたちの安全面や感染対策を考えると、必要性が高く感じます。上靴制の導入となっていますが、裸足保育の有効性はどう考えますか。2歳児クラスから上靴生活となっていますが、偏平足の子どもが増加も問題となっています。運動機能の低下にもつながるため、「思い切り遊ぶ」部分ではより有効性が高いと感じます。当別町と太美の1か所ずつしか保育施設がないため、保護者は保育の方針を選ぶことができません。人口が少ないにもかかわらず実際のところ乳児では待機児童もいるのが現状です。保育施設を増やすことも検討していただきたいです。悪天候や冬、休日に利用できる室内遊び場の導入も検討していただきたいです。</p> <p>《理由》</p> <p>長時間過す施設での安全性の問題や、心身の発達へのサポートが重要だと感じています。また、家族環境の多様化もあり、そこに配慮していただけると子育てや生活がしやすくなります。休日に当別町内で遊べる場がなく、町外へ流出する要因となっています。また、情報共有の場にもなるので、あると嬉しいのです。</p>	☆	<p>民間事業者である認定こども園とは、これまで以上に連携を図り、よりよい子育て環境の形成に努めるとともに、必要な制度等について検討してまいります。</p> <p>また、待機児童については、そのような事案が恒常的に発生しないよう、必要な保育士の確保に向けた協議を進めてまいります。</p> <p>他のご意見については、要望及びその他意見として承ります。</p>

No.	最終案 ページ	項目	意見・理由（原則、原文のまま）	対応	考え方等
28	p.30	第2章 構想編 施策4-(2)-②起業の支援・企業の誘致	<p>《意見》</p> <p>働き方改革が進み、フリーランスや副業として起業する人も増えてきています。起業時に大事なマーケティングやSNS、発信方法について学べる場や、「今の働き方」「家庭や本職との両立の仕方」など相談できる場所が必要だと考えます。始めたいと考えた時に、どこに何を相談しに行けばいいのかすら、わからないという現実もあります。札幌市にある「リラコワ」にはコンシェルジュが在籍しているため、悩んだ時の駆け込み寺として大きな役割を果たしています。そこではチャレンジ出店として無料で有料セミナーを開催することも可能です。起業したての人は収入が少ないため、継続していくためには売り上げをあげなければ継続困難です。当別町ではコミセンやターミナルなど利用可能な施設はありますが、営利目的は禁止であったり、営利目的になると利用料が格段に高くなるため、実はハードルが高いのです。収益が不安定な時期に気軽に利用できるスペースを必要としています。子どもを遊ばせながら作業ができたり、ミーティングやセミナー、ワークショップなどができるコワーキングスペースをご検討いただきたいです。また、起業家が町内で利用できるスペース（飲食店も含む）や、サービスの開示が必要ではないでしょうか。</p> <p>《理由》</p> <p>起業支援の中身が薄いため、実際にゼロから起業する人や、今の社会の流れに沿った支援を必要としている人が多くいます。当別町に住んでいるのに、当別町で活動している人と会うのは札幌という現実もあり、もっと当別町内でもコミュニティを構築できるシステムが必要ではないかと感じています。子育て支援センターは平日のみで、働いている人が休日に利用できる施設がないため、地域の人との情報共有も難しくなっています。起業まではいかなくても、「何かやってみたいを」相談できる場所が必要だと思います。</p>	☆	<p>起業支援・創業の促進については、関係団体等とともに、先進事例等も参考としながら、必要な制度の整備も含め検討してまいります。</p> <p>なお、コワーキングスペースやシェアオフィス等については、企業誘致にも繋がることから、「(p.38) 戦略I-(1)企業誘致推進プロジェクト」として掲げているところです。</p>

No.	最終案 ページ	項目	意見・理由（原則、原文のまま）	対応	考え方等
29	p.20 p.49	第2章 構想編 施策2-(1)-①学校教育の充実・小中一貫教育の推進 第3章 戦略編 戦略III-(1)小中一貫教育推進プロジェクト	<p>《意見》</p> <p>学校教育の充実・小中一貫教育の推進、とありますが大きく変化するこの機会に教育そのものの見方を考慮していただけないかと思えます。例に挙げますと東京都千代田区立麹町中学校 工藤校長が改革なされた例などです。</p> <p>《理由》</p> <p>新しい教育制度の開始により、ファミリー層の移住者確保につながると同時に、子供たちの10年20年先の新しい生き方に魅力ある当別町のミライを託せるのではないかと考えています。</p>	□	<p>具体的な方針等については、教育分野における各種方針及び計画等によりますが、いただいたご意見については、施策を進めるにあたっての参考とさせていただきます。</p>
30	p.11	第2章 構想編 施策1-(1)-①自立した地域づくり	<p>《意見》</p> <p>地域コミュニティの創造</p> <p>① 自立した地域づくり 男女参画推進・女性が活躍するまちづくり とありますが、女性活躍推進の具体的な内容はどのようなものでしょうか。経産省の女性起業家等支援ネットワーク事業に基づき、札幌市等で行われている女性の起業に向けての支援サポート、実際に活動できるような場所・情報収集や連携づくりが行えるような案内板やホームページ掲載など、希望します。</p> <p>《理由》</p> <p>当別町で実際に活動している女性たちがいるのもかかわらず、お互いの存在も認識できず、偶然札幌市で出会っている現状があります。当別町内でもPRする場所がほしいのと、まだ様々な活動をしたい女性たちがいるのではないかと考えています。</p>	□	<p>具体的な内容については、福祉や子育て、働き方、起業（創業）、教育など様々な分野にわたるものと考えますが、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」及び「雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律」その他関係法令、重点方針等に基づき、女性活躍を支える地域づくりに努めます。</p> <p>なお、いただいたご意見については、施策を進めるにあたっての参考とさせていただきます。</p>

No.	最終案 ページ	項目	意見・理由（原則、原文のまま）	対応	考え方等
31	p.24	第2章 構想編 施策2-(5)-①海外姉妹都市との交流	<p>＜意見＞</p> <p>意見(1) 総合政策としての位置づけであることから、自治体はその費用をかけて行う交流の意義が、町民をはじめとしたステークホルダーにとってより理解しやすくなるように、“なぜ（自治体として）交流を推進するのか”という根幹に関わるビジョンについて短くとも謳うべきと考えます。姉妹都市交流は、既にその目的・実績・効果が一層問われる時代となって久しいことから、相互の「友好親善」に留まらせることなく、まちづくり全般に姉妹都市との交流目的や成果を求めていく決意（構想）と基本施策を、この総合政策に期待します。具体的に記述部分で申しますと、…“この先40年・50年と継続するため”に次代を担う青少年を中心に各分野における交流を深め、交流団体の活動を支援する…のではなく、例えば“交流で得られる知見をまちづくり全般に活用するため”に継続していくのではないかと考えます。あくまでも、この先40年・50年と継続するのは結果であって、目的に置いてはならないと考えます。</p> <p>意見(2) 意見(1)に関連し、施策群において「イベントの開催支援」「周年事業の実施」が目的化していないか、計画づくりの段階で点検していただいていることを期待します。</p> <p>＜理由＞</p> <p>(1)姉妹都市交流（海外）を推進するための動機付け・目的を明確にすることで、目指すべき姿について町民・ステークホルダーと意識共有が図りやすいことと、PDCAサイクルの実効性を高めるうえで重要であると考えため。</p> <p>(2)イベント開催支援や周年事業の実施が目的化しているのではないかという懸念を抱いたため。</p>	●	<p>ご指摘を踏まえ、次のとおり修正します。</p> <p>【p.24「施策2-(5)-①海外姉妹都市との交流」】</p> <p>『 ●スウェーデン王国レクサンド市との交流については、グローバル化の進展とともに地域の国際交流活動も広がりを見せる中において30年以上続いており、国際感覚に優れた人づくりや国際性に富んだ地域社会の形成に向け、次代を担う青少年の交流を中心に、教育・福祉・文化・スポーツ・経済分野等の交流を深め、得られる経験をまちづくりに活かします。また、相互の友好親善に寄与する夏至祭や道の駅を活用したスウェーデンフェアの開催、交流団体の活動を支援します。 』</p> <p>また、意見(2)でいただいたご指摘については、それぞれのものを国際交流の目的とはしておりませんので、ご理解をお願いいたします。</p>

No.	最終案 ページ	項目	意見・理由（原則、原文のまま）	対応	考え方等
32	p.49	第3章 戦略編 戦略Ⅲ-(1)小中一貫教育推進プロジェクト	<p>《意見》 記述されているプロジェクト内容について、特に「世界で活躍するためのツールとしての英語力を高める」「ふるさとへの愛着を持ち、国際社会で活躍できる人材の育成を図る」点において、また、《今後の事業展開》にある「国際教育・英語教育・ふるさと教育」などの点においても、海外及び国内姉妹都市との交流を活用することで事業の効果を一層高めることができると考えられます。よって《関連する基本施策》には、基本施策2：豊かな人づくり-(5)姉妹都市交流（海外・国内）の推進を加えるべきと考えます。</p> <p>《理由》 当該基本施策 [2-(5)] が、本プロジェクトに謳う事柄と密接な関連があると考えられるため。</p>	●	<p>ご意見を踏まえ、次のとおり追加します。 【p.49「戦略Ⅲ-(1)小中一貫教育推進プロジェクト」】 『 《関連する基本施策》 ●基本施策2：豊かなひとづくり-(1)学校教育・青少年教育の推進 -(4)文化・スポーツ活動の振興 -(5)姉妹都市交流（海外・国内）の推進 』</p>
33	p.50	第3章 戦略編 戦略Ⅲ-(2)子育て世帯応援プロジェクト	<p>《意見》 現在の子育て状況のなかで、もっとも必要な生まれてすぐからのサポートが不十分である。里帰りすればまだ良い方で、なかには、産院から帰ってきて、夫婦二人で産後を乗り切ろうとする家庭もみられる。これは、産後の生活や育児の方法など知らないことや、産後の暮らしのための情報不足である。それにより、産後女性の体が十分に休まず、育児や暮らしがうまく回らず、なかにはうつ状態になる方もいる。近隣市町村ですでにある産後ケア事業と提携したり、ファミサポの中の産後サポートをトレーニングした人材が訪問サポートできるようにしてほしい。</p> <p>《理由》 産後ケア事業がないため。</p>	□	<p>本項目において、『妊娠期から子育て期への切れ目のない支援やサービスの充実を図ります。』とあります。これは、ご意見にある「産後ケア」も含んでいるところです。</p> <p>なお、いただいたご意見については、施策を進めるにあたっての参考とさせていただきます。</p>

No.	最終案 ページ	項目	意見・理由（原則、原文のまま）	対応	考え方等
34	p.50	第3章 戦略編 戦略III-(2)子育て世帯応援プロジェクト	<p>《意見》 図書館、児童館をつくってほしい。支援センターは、平日のみの開催で、土日に天候が悪いとどこにも出掛けられず、特に町内に祖父母がいない場合や自家用車がない、単身赴任などの一人親またはシングル、などの場合、ずっと家のなかで過ごすことになる。親子で気分転換できる場所として。また、大人にも子どもにも必要なサードプレイスとして利用できる場所として。今、体育館は無料ではなく、また子どもたちがたむろったりすると、すぐに学校に連絡がいくこともある。冬の間も塾やバスの待ち時間などにも使えて、夜間も安心して遊んだり、交流できる場所が必要です。東川町のせんとぴゅあのような施設。</p> <p>《理由》 図書室はあるが利用されていない、図書館のほかにも児童館がないため</p>	☆	図書館のあり方やその方向性など具体的な事項は、個別の（実行）計画や方針等によることとなりますが、いただいたご意見については、施策を進めるにあたっての参考とさせていただきます。
35	p.50	第3章 戦略編 戦略III-(2)子育て世帯応援プロジェクト	<p>《意見》 育児中のママたちが空いた時間に小さな起業を考えたり、相談しあったりできる場がほしい。札幌エルプラザ内のリラコワというコワーキングスペースがあるが、女性専用でなくてもよいので、そのような場があればと思う。その中から、本物の起業がうまれと商工会としてもメリットがあるのではないか。</p> <p>《理由》 青少年や主婦が起業について、興味や関心が持てるようなコワーキングスペースがないため</p>	☆	<p>起業支援・創業の促進については、関係団体等とともに、先進事例等も参考としながら、必要な制度の整備も含め検討してまいります。</p> <p>なお、コワーキングスペースやシェアオフィス等については、企業誘致にも繋がることから、「(p.38) 戦略I-(1)企業誘致推進プロジェクト」として掲げているところです。</p>

No.	最終案 ページ	項目	意見・理由（原則、原文のまま）	対応	考え方等
36	p.11	第2章 構想編 施策1-(1)地域コミュニティの創造	<p>《意見》</p> <p>①「自立した地域づくり」に関連する施策として、「町政懇談会など」と記載されているが、「町政懇談会」「議会報告会」とも2019年度に入って一度も開催されていない。どちらも行政の責任として年2回程度の開催を希望します。</p> <p>②「地域集会施設の運営」として、指定管理者制度により運営している施設として、これらを町内会等の運営主体に変更する事は、内閣府の方針にもよるものと思いますが、例えば、西コミセン等も、地域の集会場を持たない周辺町内会による運営協議会を作り、自主的に民活運営するほうが利便性も高まるものと思います。</p> <p>《理由》</p> <p>①町民の声を直接聞くことは民主主義の基本ですから。</p> <p>②民間の発想であれば、月曜日休館などはせずに利用希望にあわせて開館もフレックスに対応できる。</p>	☆	<p>これまでも、「町政懇談会」のような形式にとらわれずに、原則、毎週月曜日朝に実施している「それいいね！聞かせてご意見」や、「一体型義務教育学校基本設計説明会」のような施策ごとの説明会など、機会に応じた情報提供や広聴の場を設けてきたところです。いただいたご意見を踏まえ、今後あらゆる形で、情報の共有と広聴の機会を充実させていきます。なお、「議会報告会」については、ここで考え方を示すものではないことをご理解ください。</p> <p>また、西当別コミュニティセンターについては、他町内会の集会場（町内会館）と異なり、社会教育施設としての位置づけも考慮した指定管理を行う必要があると考えます。</p>
37	p.15	第2章 構想編 施策1-(3)-②防犯体制の強化・交通安全対策の推進	<p>《意見》</p> <p>「防犯パトロール」は、社教や地域の防犯協議会等主導で、主に町内会組織に人的依存して実施しているが、町内会の負担にもなっており、町内在住の警察出身者等是对応も熟知しているので、こうした人達に一定の報酬を出してやっていただく方が良い。</p> <p>《理由》</p> <p>結局は、町内会依存になっているので。</p>	☆	<p>いただいたご意見については、本項目において『「地域の安全は、住民相互の連帯の力によって守る」ことを住民が理解するとともに、地域防犯連絡会議を中心とした防犯体制の確立に努めます。』と記載しているところであり、特に防犯に関しては地域の皆様の協力が必要不可欠であることから、ご理解とご協力をお願いいたします。</p>
38	p.16	第2章 構想編 施策1-(5)-②公共交通の充実	<p>《意見》</p> <p>札沼線廃止のバスターミナルは、医療大学前ではなく、当別駅にするほうが、廃止路線住民の当別町での購買等につながり利便性も高い。</p> <p>《理由》</p> <p>医療大学前では、従前と何も変わらない。</p>	☆	<p>「北海道医療大学駅のバスターミナル化」については、JR札沼線（学園都市線）の北部側での最終駅となる同駅と、廃止区間の公共交通の結節点として、北海道旅客鉄道株式会社の負担によりその整備が行われますが、代替バスの運行路線については、同駅を経由し「石狩当別駅」発着となる予定です。</p>

No.	最終案 ページ	項目	意見・理由（原則、原文のまま）	対応	考え方等
39	p.20	第2章 構想編 施策2-(1)-①学校教育の充実・小中一貫教育の推進	<p>《意見》</p> <p>小中一貫校により、よりスクールバス通学児が増加すると思うが、冬場の利用を考慮すると、雪が吹き込まない屋根付きのバス停留所が必要と思います。</p> <p>《理由》</p> <p>コミュニティバス利用者も利用できるように</p>	☆	<p>屋根付きのバス停留所については、利用者の有無等により（主に年度ごとに）変更となる可能性があることや管理の問題などがあり、現実的に難しいと考えます。なお、学校においては、原則、校舎内での待機が可能です。</p> <p>コミュニティバスについては、スマートフォン等でリアルタイムにバスの現在地を調べることができる「バスロケーションシステム」の導入を予定しており、特に冬季の待ち時間解消に繋がるものと考えております。</p>
40	p.24	第2章 構想編 施策2-(5)-①海外姉妹都市との交流	<p>《意見》</p> <p>レクサンドとの姉妹都市交流で楽しい思いをしているのは、町幹部と担当職員だけだとの声が払拭できない。40周年を区切りに姉妹都市関係を中止するほうが良い。IKEAやVOLVOの関連会社の誘致にでもつながるのであれば別だが。</p> <p>《理由》</p> <p>多額の交流関係費用の無駄がなくなる。</p>	☆	<p>海外姉妹都市との交流については、毎年、町内高校生をホームステイ派遣しているほか、受入れの際には、町内家庭でのホームステイや小中学校・企業等への視察体験を実施するなど、「地域」を基本として、特に次代を担う青少年を中心に交流しているところであり、国際化が進む現代において、その経験や知見は将来のまちづくり・人材育成へ向けて非常に意義のあるものと考えます。</p> <p>現時点において、ご意見にある「企業の誘致」には結びついておりませんが、30年を超えるスウェーデン王国レクサンド市との姉妹都市交流について、ご理解をお願いいたします。</p>
41	p.42	第3章 戦略編 戦略1-(5)道の駅プロジェクト	<p>《意見》</p> <p>①「道の駅」の成否は、利用者数ではなく、町としてどれだけ黒字を出せるかにかかっている。その観点から、民間企業並みのPLやBSをきちんと発表すべき。</p> <p>②営業時間が夜早すぎる。せめて9時位まで営業しなければ飲食店の経営は成り立たない。</p> <p>③イタリアンは、隣接のスウェーデン館に移設し、本館のメイン飲食スペースに、姉妹都市宇和島名物でもある「ちゃんぽん」の店にするのが良い。ラーメン希望の利用者ニーズにもかなう。</p> <p>④地元産の3000円位の詰合せを作り、贈答品や、ふるさと納税返礼品として現地で品物先取りできるようにしてはどうか。</p> <p>《理由》</p> <p>現状では、儲かっているのかいないのか判別できない。</p>	☆	<p>「北欧の風 道の駅とうべつ」については、株式会社tobeに指定管理を委託しており、その経営状況について当別町議会において報告しているほか、各期毎に法令に基づく決算公告も行っています。</p> <p>その他のご意見については、要望として承ります。</p>

No.	最終案 ページ	項目	意見・理由（原則、原文のまま）	対応	考え方等
42	p.48 P.51	第3章 戦略編 戦略II-(5)観光資源の活用・創出プロジェクト 第3章 戦略編 戦略III-(3)日本体育大学連携プロジェクト	<p>《意見》</p> <p>「宿泊施設の建設誘致」について、既存休眠施設の「星か国際高校」跡や、「弁華別小学校」跡を、合宿施設に改装し、日体大その他の大学、高校の合宿等や、ライダー等を誘致する。「星か」跡は、子供食堂との両面利用も可能。日体大に校舎を購入いただく手もあり。</p> <p>《理由》</p> <p>日体大の駅伝部等には最適の練習場所</p>	□	<p>現在、「旧星槎国際高等学校当別学習センター」については、町外学校法人の所有物であり、また「旧弁華別小学校」については、町内法人に指定管理を委託しているところですが、ご意見のとおり、日本体育大学との連携事業の一つに部活動等「合宿誘致」もあることから、施策を進めていくにあたっての参考とさせていただきます。</p>
43	p.52	第3章 戦略編 戦略IV-(1)災害に強いまちづくりプロジェクト	<p>《意見》</p> <p>太美地区の排雪に時間がかかり過ぎる。シーズン初めの排雪は、車道部分のみを取り急ぎ実施し、2度目、3度目は、歩道部分の排雪も余裕をもって行うようにしてほしい。シーズン初めの排雪が3月に入ってしまうようでは不満が多く、又、いつも同じ地区から始まって同じ地区で終了するので不公平感が強い。</p> <p>《理由》</p> <p>KPIが苦情件数で押し量るなら、クレームを沢山出すと対応してもらえる事になる。不可解。</p>	☆	<p>要望として承ります。</p> <p>なお、KPIの設定については、除排雪対策におけるサービスの充実・向上を図るうえでの指標として適当だと考えます。</p>
44	-	-	<p>《意見》</p> <p>全般的な意見として、すべてに現在実施している内容について継続すべきか、見直しすべきか、止めるべきかの視点に欠けていると思います。時代とともに「スクラップ&ビルド」がなければ、町の発展はないでしょう。「当別方式」（物事いまままで通りに行う事だそうです）と揶揄されるような町では、札幌圏で最も魅力のない町となって消えてしまうのではないのでしょうか？</p>	☆	<p>施策を進めていくうえで、「スクラップ&ビルド」の考え方は重要であり、毎年度その視点にたち、予算編成を行い、当別町議会において議決を得て、町政を進めているところです。</p>

No.	最終案 ページ	項目	意見・理由（原則、原文のまま）	対応	考え方等
45	p.16 p.23	第2章 構想編 施策1-(5)-②公共交通の充実 第2章 構想編 施策2-(3)-②高等教育機関等との連携	<p>《意見》</p> <p>JR札沼線の廃止に伴い、月形方面から当別高校行のスクールバスを充実させるとともに、月形中学校等で当別高校の魅力（園芸デザイン科や国際交流クラブ等）をアピールし、通学に繋げてほしいです。（町での助成）</p> <p>《理由》</p> <p>当別町の交流人口を増やすためには、高校生の若い段階からの交流が大事だと思います。（当別を身近な町に感じてほしい）</p>	☆	<p>月形町には「北海道月形高等学校」があることから、いただいたご意見のようなアピールは難しいと考えます。</p> <p>なお、当別高校の魅力や特徴については、月形町に限定することなく、アピールに努めてまいります。</p>
46	p.27	第2章 構想編 施策3-(3)地域医療の充実	<p>《意見》</p> <p>初期救急医療体制を担う医療機関の誘致に伴い、町と医療法人が共同運営する診療所（19床以下）を誘致し、休日救急当番の役割を担っていただくことは有効かと思えます。</p> <p>《理由》</p> <p>町内に救急当番があることにより、医療を充実させることに繋がり、子育て世代への安心にも繋がると思えます。</p>	☆	<p>ご意見のとおり、初期救急医療を含む休日救急当番体制の確立は喫緊の課題であり、子育て世代のみならず地域住民の安心にもつながることから、医療機関の誘致も含めて最適な方法を検討し、その確保に努めてまいります。</p>
47	p.17 p.30 p.31	第2章 構想編 施策1-(6)-②情報公開の推進 第2章 構想編 施策4-(2)-②起業の支援・企業の誘致 第2章 構想編 施策4-(3)-①観光業の振興と交流人口の拡大	<p>《意見》</p> <p>企業誘致ゾーンの配置について、国道337号線は交通アクセスが良いため、蕨岱あたりに工業団地を作り、助成金を出して工場誘致を推進してほしいです。また、企業のアピールの場であるイベントを、町で積極的に発信してほしいです。</p> <p>《理由》</p> <p>工業団地形成により、当別在住者が増えるのはもちろん、札幌・江別・新篠津からのアクセスも良く、交流人口の増加に繋がり、町が活性化します。</p>	☆	<p>ご意見のとおり、国道275号とも交差する国道337号は、新千歳空港から石狩湾振港等へつながる物流・人流の要衝であることから、両国道沿線を中心に、企業誘致に向けたインフラ整備の検討を行います。</p> <p>なお、各種イベント等における情報発信についてはこれまでも実施してきたところですが、より積極的な発信に努めてまいります。</p>

No.	最終案 ページ	項目	意見・理由（原則、原文のまま）	対応	考え方等
48	p.17	第2章 構想編 施策1-(6)-②情報公開の推進	<p>《意見》</p> <p>SNSでの情報発信にもっと力を入れてほしい。現在、地域おこし協力隊さんのツイッターで当別町のイベントなどの情報を手に入れています。当別町としてもSNSを使ってもっと発信すべき。</p> <p>《理由》</p> <p>町外の人が当別町のイベントを知るためにはSNSなどネットを使うしかないと思うので。</p>	☆	ご意見のとおり、SNSの活用については有効であると考えており、現在、インスタグラムやFacebookによる情報発信も行っているところですが、より効果的・効率的な運用・活用について検討課題としてまいります。
49	-	-	<p>《意見》</p> <p>当別町は若者、お年寄、子育て世代、どの層に一番来て欲しいのかイマイチわからない。ターゲットを明確にして、色々なサービスを考えて欲しい。</p> <p>《理由》</p> <p>北おうの建物がカントリーサインになってる位なのでそれを意識した施策など・・・。子供の医療費負担住宅手当など、サービスをもっと増やすと、当別町に住みたい人が増えると思います。</p>	☆	出生数の増加・死亡数の減少による「自然人口の増加」、転入の増加・転出の抑制による「社会人口の増加」による「定住人口増加」のため、それぞれの世代に対して必要な施策を進めていきます。
50	p.2	第1章 序論 1-3計画の構成と期間	<p>《意見》</p> <p>「(2)総合戦略編」について。「当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略」はH27年度条例設置の委員会で議論の上、定めたものであると承知しているが、ここで第2期と称する「総合戦略」はどこで、どういったメンバーが作成し決定したものなのか。</p> <p>《理由》</p> <p>「流れ」が分からない町民には第2期と言われても理解できない。長計にふさわしい表現が必要でないか。</p>	☆	始期を同じくする「総合計画」における戦略プランとして位置づけていることから、当別町総合計画審議会に諮問し、審議いただいているところです。

No.	最終案 ページ	項目	意見・理由（原則、原文のまま）	対応	考え方等
51	p.2	第1章 序論 1-4目標とする定住人口等	<p>《意見》</p> <p>「1-4目標とする定住人口等」について。定住人口目標を「第5次総計」では2万、「当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略」では2030年までに1万7千余、2040年に2万人を目指すとしている。今回これを書き換え2030年1万6千、2040年1万8千、2060年2万としている。この新しい計画の決定に関わるであろう役場の50歳代職員が40年先の2060年に何人生きているのか？このような誰も責任の取りようもない遙か先の目標を掲げるのは全く意味がない（しかも社人研の人口予測では、2060年の当別人口は7千人を切ると推計されている）。少なくともここでは10年先の目標を根拠を示してつつ提示すべき。</p> <p>《理由》</p> <p>これまでの定住人口目標を書き換える（「増える」とする）根拠が不明。</p>	☆	<p>全国的に少子高齢化が進むなか、本町の令和元年12月1日現在の人口は15,852人となっており、今後も人口減少が予想されます。</p> <p>ご意見のとおり、定住人口の増加は高いハードルであることは認識しておりますが、本計画を町全体で取り組むことで、魅力を高め、内外に積極的に発信することで目標人口の達成を目指していくものです。</p> <p>現状に即した目標として「10年後に16,000人」としつつ、その後の目標人口については、長期的な視点によるまちづくりを地域の皆様とともに進めていくためにも必要であると考えます。</p>
52	p.5	第1章 序論 1-6-(1)都市機能の集約	<p>《意見》</p> <p>「(1)都市機能の集約」について。本文中の「都市機能の誘導」とは何を指すのか不明。見出しで「集約」と言っておきながら、本文では「誘導」というのは矛盾。「集約」とは行政の強い意志が現れるが、「誘導」とは「お誘いをしますよ」程度であり施策に使う用語としてはふさわしくない。また、「出かけたくなるまち」とは、どこを指すのですか？札幌へですか、江別へですか？</p> <p>《理由》</p> <p>用語が不明瞭。不自然。</p>	☆	<p>医療・福祉・商業といった様々な都市機能を「誘導」し、「集約」させることで利便性の向上を図ることを目指すものです。</p> <p>これは、国土交通省による「立地適正化計画制度」においても示されており、本計画中に使用する用語として適当であると考えます。</p> <p>また、「出かけたくなるまち」とは、賑わいの創出・地域コミュニティの醸成等様々な視点から、利便性の向上により子どもからお年寄りまですべての方が「すすんで当別のまちなかへお出かけしたくなる」という意味です。</p>
53	p.2	第1章 序論 1-3計画の構成と期間	<p>《意見》</p> <p>「基本構想」は概ね10年、「総合戦略」は5年とするとなっている。6年目以降は「総合戦略」はなくなるという理解となるが、そういうことか。</p>	☆	<p>内閣官房及び内閣府より、『地方版総合戦略の計画期間は、可能な限り、国の次期「総合戦略」の計画期間に合わせていただきたい』と示されており、国の第2期総合戦略が2020年度～2024年度の5ヵ年となることから、それに合わせております。</p> <p>なお、制度の改正が無いと仮定した場合、本計画の後期にあたる2025年度以降の5ヵ年は「第3期総合戦略」として策定する予定です。</p>

No.	最終案 ページ	項目	意見・理由（原則、原文のまま）	対応	考え方等
54	pp.34~	第3章 戦略編	<p>《意見》 22 p.(3)の①生涯学習活動の促進にある●の上から1~3の項目については、「総合戦略」編ではほとんど反映されていないのはどうしてなのか。大学と協力してスポーツ的、福祉的なことだけが生涯学習ではないはず。</p> <p>《理由》 「定住人口減少克服に焦点をあて」（34 p.）るのであれば、生涯学習環境の整備充実を今以上にやらねばならないのではないかと。そうしないと人口流出は免れないだろう。</p>	☆	<p>ご指摘の「生涯学習活動」のみならず本計画に記載の事項については、計画期間内に目標を達成するための重要な要因としてその方向性を整理しており、特に戦略的に進めていくプランやプロジェクトについて、総合戦略編に記載しているところです。</p>
55	-	-	<p>《意見》 全体を通してカタカナ語、略語・略字が多すぎる。例えば Society5.0とはなにか？だれが言い出した語なのか。6.0とか4.0とかはないのか？用語解説もついていないパブコメは手抜きとしか言い様がない。ことばを尽くして丁寧に「長期計画」を町民に提示することをしないと行政への理解は深まらない。</p> <p>《理由》 誰のための「総合計画」なのか</p>	☆	<p>本計画（案）の作成にあたり、できるだけ堅苦しい言葉や特殊な言葉・表現を避けることを心がけましたが、固有の名詞や用語など、文書中にその言葉を使うことが適当な場合もあることについて、ご理解をお願いいたします。</p> <p>なお、その用語などについては、資料として用語解説を設けます。</p> <p>また、パブリックコメント時点で用語解説が無いというご指摘については、真摯に受け止め、本計画の改定又は次期計画策定の際の反省とし、より丁寧な提示に努めてまいります。</p>